

# 【外国語・中1・「Unit 5 This Is Our School」】①

## 育成を目指す資質・能力

単元目標：新しいALTに学校のことを知ってもらうために、お気に入りの場所を伝えたり、おすすめの場所をアピールしたりすることができる。

本時のねらい：コロナ収束後に行ってみたいところについてたずね合うことができる。

## ICT活用のポイント

コミュニケーションのためにつなぐ / 目的・場面・状況の把握 / 考えの共有 / 個別最適な学びの実現 等

ウォームアップ・帯活動

【活用場面①】

課題把握

【活用場面②】

課題追求

【活用場面③④】

振り返り

## 事例の概要

【事例におけるICT活用の場面①】（コミュニケーションをつなぐ）

○近距離の対面の活動を避けるために、端末にマイク付ヘッドセットを接続し、Web会議機能によりペア活動を行う。

【事例におけるICT活用の場面②】（目的・場面・状況の把握）

○大型モニターを活用して写真を写しながら、教師がモデル提示する。

【事例におけるICT活用の場面③】（コミュニケーションをつなぐ／考えの共有）

○行ってみたい場所について、【場面①】と同様に、ペアで伝え合う。

○学習支援ソフトの共有機能で、ペア活動ができなかった人の考えを知る。

【事例におけるICT活用の場面④】（個別最適な学びの実現）

○教科書の二次元コードを各自で読み込み、ヘッドセットで音声を聞きながら、各自のペースでシャドーイング、音読をする。

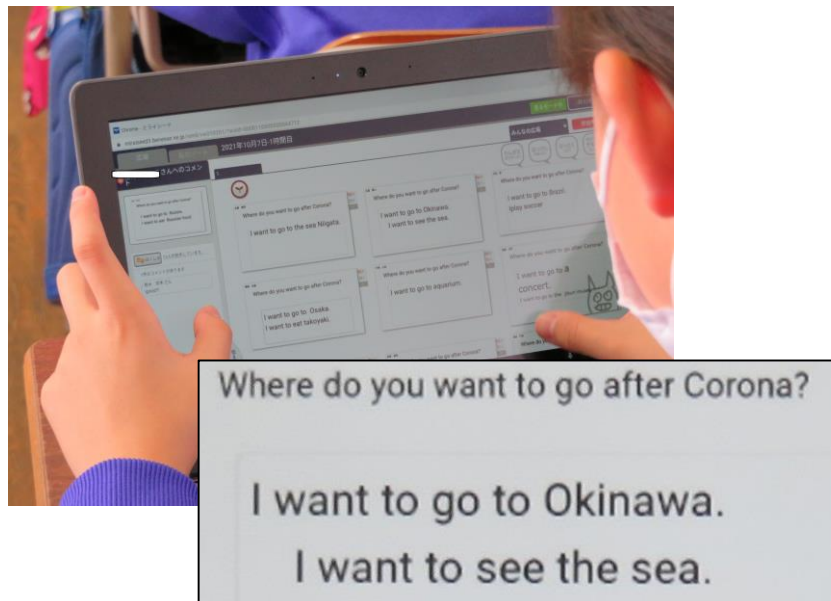
# 【外国語・中1・「Unit 5 This Is Our School」】②

## 【事例におけるICT活用の場面①及び④】



- ペアで行うやり取りや、教科書の音声聞いてシャドーイングを行う際に、平成31年度（令和元年度）全国学力学習状況調査の英語調査のために配付されたヘッドセットを活用することで、ペア活動を感染症に配慮して実施したり、子どもが各自のペースで聞いたり読んだりすることができる。
- Web会議機能のアプリケーションによっては、ペア設定に工夫が必要となる。
- オンラインでやり取りをする体験は、他校に勤務するALTや海外の人材を対象とした言語活動の疑似体験となる。
- 授業の活動の中で教科書に記載されている二次元コードを活用することで、子どもが自らの学びを調整する資質を高めることができる。

## 【事例におけるICT活用の場面③】



- 学習支援ソフトの共有機能を活用して、やり取りで伝えた各自の考えを文章化して共有する。やり取りができなかった人の考えを知ることができる。
- 目的・場面・状況が明確になっていることで、聞く・話す（やり取り）活動から書く・読む活動へと、スムーズにつながる。
- 書く活動については、タイピングでも手書き機能でも、子どもの実態に応じて使い分ける。
- コメント機能を活用することで驚きや共感を表したり、他者の考えや記載内容を参考にして自分自身の内容を見直したりする。
- 教師の意図により取り上げたい内容については大型モニターを活用して示したり、取り上げた内容をもとに子どもとのやり取りをしたりする。